

年 組 名前:

中国産チヨウ生息域拡大

特定外来生物に指定された中国原産のチヨウで、1990年代から関東地方で増えているアカボシゴマダラが東北、中部地方などにも生息域を広げ、山梨県でも確認されている。餌となるエノキの葉は、オオムラサキやゴマダラチヨウなど

と、関東1都6県と山梨県のほかに福島、新潟、長野、静岡の4県で確認。北海道や宮城、山形、愛知、京都、大阪、兵庫でも目撃例がある。

在野の研究者で専門書「新・福島県の蝶」を出版した渡辺浩さん(59)は同県石川町によると、アカボシゴマダラはタテハチヨウの仲間、7〜9センチになる大型のチヨウ。国内では奄美諸島に亜種が生息するが、90年代から埼玉県などで中国大陸から持ち込まれたアカボシゴマダラが見つかり始め、生息域を広げてきた。

環境省や専門家による調査によると、2018年、奄美亜種を除くアカボシゴマダラを特定外来生物に指定し、輸入や飼育を原則禁止している。

(2021年6月1日付 山梨日日新聞 10面)

問1

特定外来生物に指定された中国原産チヨウのアカボシゴマダラが、日本国内にも生息域を広げています。競争によって、在来種にどんな悪影響が懸念されますか。

.....

.....

.....

問2

環境省などによると、日本国内でアカボシゴマダラの生息が確認されている12都県はどこですか。

「 」

「 」

「 」

「 」

「 」

「 」

「 」

「 」

「 」

「 」

問3

アカボシゴマダラのように日本国内に生息域を広げ、在来種に悪影響を与えている外来種の魚類や動物、植物などを調べ、名前を挙げてください。

.....

.....